

■発行／神戸市灘区六甲台町1  
りくそうかい  
神戸大学農学部内 六篠会  
(神戸大学農学部同窓会)  
■連絡用 FAX : 078-881-2752  
■E-mail : rikusoukai@yahoo.co.jp

# 六篠会報



●六篠会長の挨拶	2
●六篠会前会長退任の挨拶	3
●農学部近況報告12 農学部長	4
●神戸大学の近況報告12 理事・副学長	5
●学友会だより	6
●同窓生は今… (1)藤嶽暢英	7
	8
●第7回ホームカミングデイの開催	9
●六篠会総会報告	10
●支部便り (1)KÖBE 六篠会 (2)県六篠会	11
	12
	13
	14
	14

●研究室紹介 (1)昆虫多様性生態学	15
	16
	17
●研究最前線 (2)生殖生物学	18
	19
●六篠業績賞 (3)森林資源学	20
●六篠若手賞	21
●六篠奨励賞及び学生賞	22
●同窓会報告 (1)庶務報告	23
	24
	24
●23年度決算報告	24
●24年度予算報告	24
●同窓会事務局の案内	24
●編集後記	24

# 会長挨拶

母校への熱き想い、いつまでも  
会長就任のご挨拶

六篠会会長 王子 善清 (兵C12回)



六篠会会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は六篠会の発展のためにご尽力頂いておりますことを深く感謝しております。

昨年の東日本太平洋沖地震、それに伴う大津波、原子力発電所事故による放射能災害が、今なお終息せず、加えて、全国各地で、かつて聞いたことのなかった山林の深層崩壊、ゲリラ的な竜巻被害まで頻発しており、大きな不安を抱かせております。地球環境の変化や異常気象が大変気がかりです。皆様の地元は如何でしたでしょうか。

さて、私こと本年7月21日の六篠会総会におきまして、会長に選任され、前会長の北浦大先輩のあとを受け重責を担うこととなりました。私にとって大変な重荷ではありますが、会員の皆様の温かいご支援ご協力を頂きながら、母校のため、六篠会のために、微力ですが尽くしたいと決意を新たにしておりますので、宜しくお願い申し上げます。

六篠会は、その発足以来、西川、新家、北浦各氏の有能な会長様のご尽力により大いに発展し、現在では、会員9千人を超え、全国各地域で、各分野にわたり活躍され、多くの功績を挙げられておりますことは、誠に喜ばしい限りです。

六篠会では、平成22年に「六篠賞」を創設し、著しい功績のあった農学部の先生や成績の優秀な学生を表彰し、農学部の発展をいささかなりとも後押ししたいとの想いで活動しております。このような本部の活動の他に、六篠会では、地域や職域において支部結成を促し、現在のところ、地域では、関東、東海、広島各支部が、職域では、神戸市、兵庫県、さらに酒造関係者による各支部が結成され、それぞれ積極的に活動されております。本部としても支部活動を推奨し、若干の資金の援助も行っております。支部結成に尽力くだされば、本部と

しても慶びとするところであります。

神戸大学の全学部同窓会の連合体である学友会の活動にも積極的に参加し他学部の同窓会との交流の輪を広げているところです。学友会にも全国及び一部外国にも支部が結成されており、大学の現況について最新の情報も得られますし、また旧交を温めるために、学友会支部にも積極的に参加されることをお勧めしたいと存じます。

本年は、神戸大学にとって、大変喜ばしいことが、二重に重なりました。医学部卒業生の山中伸弥教授が本年のノーベル生理学・医学賞の栄誉に輝いたことは、同じ神戸大学人としてこの上ない慶びであります。特に、農学部と医学部は、ともに兵庫県立大学として産声を上げ、兵庫農大には、兵庫県立神戸医科大学へ進学する2年間の医進課程があり、私などは、医学部生と同じ教室で講義を受けました。後に、セツで国立移管され、それぞれ神戸大学農学部、医学部となったのです。二つの学部はそもそも兄弟のような関係にあり、今回の山中先生の受賞は、農学部関係者へも大きな希望と勇気を与えてくれたものとして慶びを分かち合いたいと存じます。もう一つは、神戸大学の名誉博士であられるファンロンパイ大統領の率いるEUが、ノーベル平和賞を受賞したことです。神戸大学とEUとは、特に社会科学系の分野で密接な関係にあり、文部科学省からも大いに期待されているところです。

神戸大学は、明治35年の創立以来、本年で110周年を迎え、去る5月には記念式典、記念講演などの行事を執り行い、募金活動も行っております。母校の益々の発展のため、ご理解とご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員皆様の益々の発展とご健勝を祈念しつつ、ご挨拶といたします。

## 神戸大学農学部並びに六篠会の限らない発展に期待 (六篠会会長退任にあたって)

神戸大学同窓会六篠会前会長

北浦 義久



六篠会会員の皆さん、お元気で国内外のそれぞれの地域や職域で、益々のご活躍のことと、心からお慶び申し上げます。

私、平成13年5月に先輩の新家先生から六篠会会長を引き継いで以来、10年余にわたり、会長を務めさせていただき、会員の皆さんとの交流を深めると共に、母校、神戸大学農学部の発展に寄与すべく、微力を尽くして参りました。この間、会員の皆さん方の力強いご支援、ご協力をいただくと共に、大学側の歴代農学部長さんを始め、諸先生方並びに事務局の皆さんのご指導、ご支援を賜り、無事職責を果たすことが出来ました。会員並びに大学側の先生方始め、事務の方々に対しまして、衷心よりお礼と感謝の意を表します。

退任にあたり、在任中の思い出の一端を綴って見たいと思います。まず、平成21年には神戸大学農学部が丹波篠山の地で兵庫農科大学として呱々の声をあげてから60年の記念すべき年を迎え、10月31日に創立60周年式典が挙行されました。

ここに至る迄には幾多の変遷を経ています。昭和41年には、兵庫県立大学から国立神戸大学への移管が決定し、学舎も篠山の地から現在の神戸市六甲台へ全面的に移転しました。さらに平成16年には国の大学制度の改革に伴い、国立大学法人神戸大学農学部となり今日に至っています。また、この間、教育内容も改善充実されると共に、大学院も設置される等、飛躍的な発展を遂げてきました。さらに、篠山から六甲台に移管された当時建設された学舎も古くなり、平成18年から改修工事が進められ、今日、素晴らしい教育環境が整っています。

こうした歩みの中で、六篠会としても学舎周辺の環境整備や施設の充実に加えて、学生に対する活動支援や学術研究支援に取り組んで参りました。さらに平成22年度から学生並びに先生方の教育研究活動で顕著な実績をあげられた方々を顕彰

する制度「六篠賞」を設け実施しています。こうした教育研究環境の中で、最近神戸大学農学部を志望する学生が増え、レベルも高くなっていると伺い、同窓生としても、喜びに堪えないところです。

この他、同窓会活動として、本部では名簿の印刷配布や管理、さらに会報発行を通じて大学や同窓生の動き等をお知らせする一方、各支部で開催される総会にも出席し、交流を深めて来ました。また、学内、他学部同窓会との交流を深めるため、学友会活動やKUC活動、さらに、ホームカミングデイにも積極的に参加してきました。

今、大学を取り巻く環境は大変厳しいと伺っておりますが、こうした時こそ、同窓会の果たす役割も大きいものがあると思います。王子会長さんを始め、新しい役員の皆さんのが、一致団結して、六篠会の運営に当たられると共に、同窓生の皆さんも、母校への熱い思いをもって、母校神戸大学農学部の発展と、同窓会「六篠会」の発展に大きく寄与されます様、祈念して止みません。

長年にわたる、ご支援、ご協力に改めて感謝申し上げますと共に、神戸大学農学部並びに六篠会の充実発展を期待し、退任の挨拶とさせていただきます。



# 農学部近況報告12

大学院農学研究科長・農学部長 内田 一徳



2012.3.21「校庭にイワテヤマナシの花を咲かせよう」プロジェクト  
(岩手県大槌町吉里吉里小学校)

実りの秋を過ぎ、六甲山の紅葉とともに、日に日に寒さが増す今日この頃です。六篠会会員の皆様には益々ご清祥にご活躍のこととお慶び申し上げます。

神戸大学も創立110周年を迎えて、"For 110 years and beyond"をキヤッチフレーズに抱え、ビジョン2015の実現を目指して日々努力しています。皆様もよくご存じのように、「大学改革実行プラン」や「ミッション再定義」、「学士力の向上」など、文科省から課せられた懸案が数多くありますが、現在の「農学への追い風」を受け、教職員の「和の力」で、次のステップへ向けて躍進できるように頑張っています。

10月27日開催のホームカミングデイには、多数の六篠会会員の方々や退職されました先生方にご参加いただき、誠にありがとうございました。大会議室での退職されました先生方との懇談会、C101教室での六篠賞の授与式と受賞記念講演、OBや学生の方々の講演とポスター発表、さらに学生ホールでの懇親会まで、多くの笑顔と会話の絶えない楽しいホームカミングデイとなりました。今後もできるだけ多くの六篠会会員の皆様がホームカミングデイにご参加いただき、卒業生と旧教員の方々、ならびに現役の学生や教職員との交流を深めていただけるよう、いろいろな工夫をしていきたいと思いますので、どうかよろしくご協力賜りますようにお願いいたします。また、神戸大学基金へのご協力もどうかよろしくお願いいたします。

今年も、会員の皆様に、農学部の明るい元気なニュースをお届けしたいと思います。

お陰様で、過去3年間、8月のオープンキャンパスには1日で2千人を超える高校生と保護者が集まり、学内でも注目されております。さらに、今年の入試における志願者数は804名と昨年の938名よりはかなり減ったものの、志願倍率は前後期とも工学部のそれを上回っており、「農学への追い風」を感じています。

次に、うれしい受賞のニュースです。10月18日に行われました平成24年度学長表彰式には、万年英之教授が学長表彰を、片山寛則講師が特別賞を受賞されました。これは昨年度の食資源教育研究センター技術職員13名の学長表彰特別賞受賞に連続した受賞で、同一部局からのダブル受賞は初めての快挙です。万年先生は「平成23年度日本農学賞・読売農学賞」及び「平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞」の受賞を讃えたもので、片山先生は「校庭にイワテヤマナシの花を咲かせよう」東日本大震災復興支援プロジェクトの取組実施を讃えたものです。

さらに、多くの先生方が学会賞や論文賞などを受賞しております。井上一哉助教が「日本雨水資源化システム学会奨励賞」、石井弘明准教授が「日本生態学会大島賞」、草薙仁教授が「2012年度日本農業経済学会学会誌賞」、山崎将紀准教授が「平成23年度日本育種学会奨励賞」、松尾栄子助教が「日本獣医学会学術集会微生物分科会若手奨励賞」、原山洋准教授が「2012年度日本繁殖生物学会賞学術賞」、李智博特命助教が「2012年度日本繁殖生物学会賞奨励賞」、庄司浩一准教授が「2012 EAEF BEST PAPER AWARD」を、それぞれ受賞されました。心から祝福したいと思います。誠におめでとうございました。益々のご精進とさらなるご発展をお祈りします。

次は、教員の異動についてです。まず、平成24年3月31日付で定年退職されました先生は、応用動物学講座の長谷川信先生、応用植物学講座の寺井弘文先生、農環境生物学講座の朴杓允先生の3名の先生方で、応用植物学講座の稻垣昇先生は定年より1年早く退職されました。一方、平成24年1月1日から10月1日までの昇任または新規採用の人事は、例年のほぼ倍の12名ありました。まず昇任人事から専攻毎にご報告します。食料共生システム学専攻では、1月中塚雅也

先生が自然科学系先端融合研究環重点研究部助教から食料環境経済学講座准教授に、生産環境工学講座の河端俊典先生が准教授から教授に、10月に同講座の井上一哉先生と井原一高先生が助教から准教授に、資源生命科学専攻では、10月に応用動物学講座の上曾山博先生が准教授から教授に、生命機能科学専攻では、1月に農環境生物学講座の池田健一先生が助教から准教授に、10月に同講座の中屋敷均先生が准教授から教授に、1月に附属食資源教育センターの山崎将紀先生が助教から准教授に、それぞれ昇任されました。新規採用では、1月に中馬いづみ氏が神戸大学農学部ITP派遣研究员から自然科学系先端融合研究環重点研究部助教（病害虫・雑草の総合防除研究チーム）に、8月に加藤拓氏が帯広畜産大学機関研究员から生命機能科学専攻農環境生物学講座特命助教に、9月に松本文子氏が日本学術振興会特別研究員から自然科学系先端融合研究環重点研究部助教（循環型地域環境の創生科学研究チーム）に、9月に吉田康子氏が筑波大学非常勤研究员から附属食資源教育研究センター助教に、11月に木村行宏氏が自然科学系先端融合研究環助教から応用生命化学環境分子物理化学講座助教にそれぞれ新規採用されました。この結果、農学研究科関係の女性教員は合計9名、約10%となりました。このうち、一昨年度から開始された『女性研究者養成システム改革加速』プログラムに関連する女性教員は6名ですが、それぞれに5年の任期付き純増枠として特命助教を採用できます。すでに2名の特命助教が着任しており、さらに4名の特命助教を新規採用予定です。

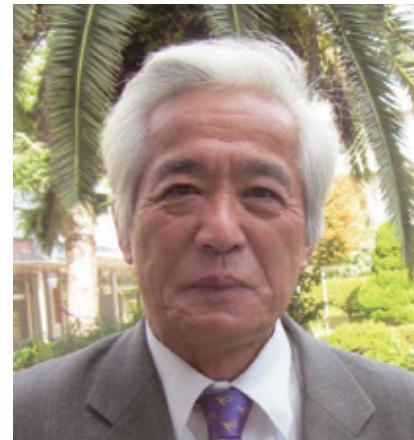
統いて教育関係のニュースです。農学部では、これまでにも積極的に国際連携教育を推進してきました。平成19年10月から実施してきました「食料危機に備え資源保全をEUに学びアジアに活かす国際農業戦略の実践的トレーニング」であるITP(International Training Program)事業(H19-24)が9月末で終了し、締めくくりの国際シンポジウムが多くの海外研究者を招いて9月5~6日に実施されました。また、昨年度に引き続いて8月6~8日には乾先生や宅見先生らによる「植物を用いた新たな環境浄化法」サマーサイエンスキャンプが実施されました。この科学技術振興機構JSTによるプログラムには全国から20名の高校生が参加して最新の研究を実体験してもらいましたが、高校生のキラキラした眼が大変印象的でした。9月8日は、平成24年度公開講座「農業と伝遺資源」未来への架橋となる動植物の多様性」が開催されました。

統いて研究関連ニュースです。まず、神戸大学フラグシッププロジェクトであるJST「バイオプロダクション次世代農工連携拠点」プロジェクトが中間評価再チャレンジで今後7年間の研究継続が認められました。9月20~21日に農学研究科附属食の安全・安心科学センターと東京大学食の安全研究センターの共催で「日本の食の安全を考える」フォーラムが東京大学で開催されました。今後も継続したフォーラムの開催や共同研究が大いに期待されます。さらに、同じくJST 地球規模課題対応国際科学技術協力事業として、杉本幸裕先生が中心となって実施しております「根寄生雑草克服によるスーダン乾燥地農業開発」プロジェクトや、若手中堅研究者の「インターナショナル」研究会も、順調に研究を継続しています。その他の国際関連研究ニュースは中村理事・副学長の記事をご覧ください。

私の研究科長任期も最終年度となりました。これまでに皆様方から頂戴しましたご支援ご鞭撻に心から感謝いたしますとともに、神戸大学基へのご寄附を含め、今後とも神戸大学および農学部へのご支援をよろしくお願いいたします。六篠会の今後益々のご発展と、六篠会会員の皆様のご健勝とご発展を心から祈念いたします。

# 神戸大学の近況報告12

理事・副学長 中村 千春



六箇会会員の皆様におかれましては、お変わりなくお元気でお過ごしのことと存じます。今年も、国際学術交流を中心とした神戸大学の近況を報告致します。

まずは、日本中が沸いたビッグニュースです。山中伸弥教授（京都大学）が、今年度の「ノーベル生理学・医学賞」を受賞されました。山中先生は、神戸大学医学部を卒業された私たちの仲間です。この快挙に、神戸大学関係者は挙って祝杯をあげ、喜びを共有されたことと存じます。

山中先生の肉声を聞いたのは、2008年4月の神戸大学入学式でした。スピーチに立たれた先生は、新入生諸君に3つの言葉を告げられ、励まされました。「Vision and Hard Work (VW)」が始めでした。米国留学時代の恩師であるグラッドストーン研究所のロバート・マーレー所長に教えてもらった言葉と聞きましたが、未来への展望をもって、一生懸命働くことの大切さを熱く語られました。我武者羅ではなく展望をもつことが大切と言われました。私はいまだに、猪突猛進的で我武者羅に動くことが、時折ですがありますから、ドキリとさせられました。次は、「人間万事塞翁が馬」でした。幸運と不運は交互にやってくるのだから、有頂天になんでも挫けてもいいけないという教えです。父からは「人生はあざなえる縄のごとし」と教わっていましたし、随分と多くの失敗を重ねてきましたので、この言葉は、すんなり胸に収りました。3番目は、「研究も人生もマラソン」でした。諦めないで走り続けるのはやさしいことではありません。ラガーマンでもマラソンランナーでもある山中先生は、以上3つの言葉で、「継続は力である」という真理を新入生諸君に分かり易く上手に表現されたのだと思いました。

国際関係のニュースを3つお知らせします。関西の主要3大学である神戸大学・京都大学・大阪大学が9月6日に、中国5大学（復旦大・上海交通大・蘇州大・同濟大・浙江大）と「日中蘇州シンポジウム」を開催しました。日中8大学の学長が一同に会して「グローバル人材育成に向けた国際化戦略」を語ったシンポジウムは大きな反響を呼びました。皆様にお伝えしたいのは、次のことです。「日中蘇州シンポジウム」は、池田泉州銀行の主催で開催されましたが、アイディアの取り上げ段階から始まり、福田学長のリーダーシップのもとに実現しました。シンポジウムの詳細については、10月22日の日経新聞全国版に見開き2ページで掲載されましたので、読まれた方も多いと思います。なお、シンポジウムの翌7日には上海神戸大学同窓会が、9日には北京で第3回グローバルリンクフォーラムが開催されました。北京フォーラムでは竹田真木生先生が、地球温暖化や化学物質による環境変化・汚染が昆虫の分布や生態系に与える影響について、いつもの竹田節で壮大なスケールの話をしてされました。中国でのこれらの行事は、「尖閣諸島」の問題で日中関係が軋み始める直前の開催でした。1週間遅れていたら実現不可能であっただろうと思います。学術や文化の交流は相互理解の礎ですので、途絶えず続いていると思います。

2番目のニュースは、文科省の大学国際化事業、「大学の世界展開力強化事業」と「グローバル人材育成推進事業」に採択されたことです。前者については、昨年度に統合で2件目の

採択です。これで、神戸大学では、競争資金による国際化事業が3つ走ることになりました。「グローバル人材育成推進事業」では大野隆先生（全学共通教育部長）のリーダーシップが發揮されることでしょう。成果を上げることが期待されています。次は関連の報告です。9月24日に、ラオス教育省との間で学術交流協定を締結してきました。ラオスを始めASEAN諸国では高等教育を担う人材が決定的に不足しています。協定では、アジア開発銀行の支援を得て、今後5年間で、修士課程6名、博士課程5名のラオス留学生を神戸大学に迎えることが決まりました。この事業は、JICAと文科省の共同プロジェクトとして、国際協力研究科がラオス国立大学経済経営学部の創設に尽力した実績を礎に、ラオス教育省の強い要望を受けて始まったものです。農学分野は、ASEAN諸国の人材育成に大きく貢献できます。農学部・農学研究科が培ってきたASEANとの学術交流がますます進展・深化することを期待します。

3番目は、EU関連です。10月には、オックスフォード大学東洋学部日本学科の2年生全員12名が文学部へ1年間の留学で参りました。この事業は、5年間続きます。EUインスティテュート(EUIJ)関西（神戸大学が幹事校）の第3期の事業継続も先日決まりました。さらに、12月6日には、ブリュッセルオフィス第3回シンポジウムを開催します。今回のテーマは、「グリーンイノベーション&ライフイノベーション — 日欧協力による成長社会の実現」です。4つのセッションがふたつずつ同時並行で進みますが、グリーンイノベーションをテーマとしたInnovative Bioproduction for Sustainable Societyでは、吉田健一先生が研究発表致します。EUとの学術連携は、神戸大学の国際戦略の柱のひとつです。神戸大学は、EU総合学術センター、ブリュッセル事務所、EUIJ関西などを核として、EUとの学術交流を今後とも進めています。

ところで、今年のノーベル平和賞がEUに与えられました。金融・経済の苦境からEU統合の試みは前途多難ですが、長年のEU統合の歩みへの評価とともに未来への期待が決め手になったのだと思います。12月10日にオスロで開かれる授賞式に誰が出席するのか取沙汰されているようですが、ファンロンパイEU首脳会議議長（EU大統領）とバロージュ洲委員長は間違いなく出席されるだろうと思います。お二人は、ともに神戸大学名誉博士ですので、これも神戸大学にとって嬉しいことです。福田学長から、お二人には祝電が打たれました。

世界は今、激しい変化の時を迎えてます。グローバル化がもたらすプラスとマイナスをどう調整するか。私たち一人一人が考え行動しなければと思います。様々な困難に怯まず、夢や希望を抱いて邁進する若者を育て支え続けることのできる社会であって欲しいと願います。そのためにも、有為な人材の育成を担う大学の責任はますます増大しています。六箇会会員の皆様におかれましては、今後とも神戸大学と農学部・農学研究科への変わらぬご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、六箇会のますますの発展と六箇会会員の皆様のご健勝とご安寧を心より祈り申し上げます。どうぞよい新年をお迎えくださいませ。

# 学友会

## 学友会だより 事務局

### ◆神戸大学創立110周年記念、神戸新聞特集記事に全同窓会が名刺広告を掲載しました。

神戸新聞社から神戸大学創立110周年を記念した特集紙面「国際性育む伝統と環境」を平成24年5月15日朝刊に掲載するにあたり、学友会に協賛依頼があり、学友会を構成する10同窓会が名刺広告を行いました。

### ◆平成24年度 第1回学友会幹事会を開催しました。

平成24年6月27日（水）午後5時30分から、本部棟6階の大会議室において開催しました。

協議題として、

- ①平成23年度収支決算（案）並びに会計監査報告
- ②平成24年度収支予算（修正案）
- ③神戸大学ロゴマーク旗使用申請書（案）

が上程され、協議題①について、決算及び監査報告の内容については原案どおり承認され、会計報告並びに事業報告の承認期限を1か月繰り下げることについて協議が行われ、今年度中に会則を改正することで承認されました。

協議題②及び③につきましては、原案どおり承認されました。

また、大学側からは、

- ①平成24年度入学式
- ②創立110周年記念式典
- ③社会科学系教育研究府
- ④育友会懇談会
- ⑤第7回ホームカミングデイ

並びに、

- ⑥神戸大学基金の現状と協力依頼などについての報告

がありました。

高崎学友会会长からは、国立大学に対し、新たな改革が求められている現状を十分理解し、大学と同窓会のより密接な連携を行うことが重要であり、協力願いたい旨の発言がありました。

### ◆学友会支部として「神戸大学同窓会サンフランシスコ支部」が登録されました。

平成24年10月現在の学友会支部は、国内10カ所（東京、大阪、神戸、北海道、福井、岡山、鳥取、島根、愛媛、京滋）、国外4カ所（デトロイト、ニューヨーク、マニラ、サンフランシスコ）の14カ所が組織され、それぞれ活発に活動されています。

所在地等につきましては、学友会のホームページをご覧ください。また、支部登録についてお考えの場合は、学友会事務局までお問い合わせください。

学友会事務局 Tel078-803-5042 E-Mail:plan-gakuyukai@office.kobe-u.ac.jp

学友会のHP <http://www.kobe-u.com/alumni/index.html>

# 同窓生は今…

神戸大学大学院農学研究科教授  
**藤嶽 暢英** (神C17回)  
 昭和61年3月卒



まさか私が皆さんの母校の教員として名前を連ねているとは...同期の方はもちろん、学生当時の私を知る先生方や周囲の方達が驚かれている様子が目に浮かびます。なによりも改めて驚いているのはこの私なのですから。

学生時代を振り返ると、研究室配属までの3年間は大学に寄りつかず、ただ単位取得のためだけに時折通学する留年候補最有力の学生でした。幸い、献身的かつやさしい同期の諸氏に助けられたために留年経験を経ずにすみました。当時の私の関心は、自分に何があるのか（できるのか）ということに注がっていました。京都の山奥に藁葺小屋を借りて住んでみたり、北米シアトルからアラスカまでの往復を車で旅したりと、学生時代の有り余る時間を勉学よりもいろんな体験をすることに費やしていました。

歴史ある土壤学研究室に「成り行き」で配属されたときに、このしつけ返しが訪れます。指導教員であった土田廣信先生には高校化学の参考書を勉強してから出直してこい、と叱咤される始末でしたが、さすがにこの知識で農学部卒は恥ずかしいと思うように成り、一年だけでも真剣に取り組もうと姿勢を改めました。が、気持ちだけで事が成るはずもなく、ゼミの英文紹介なども四苦八苦で取り組み、そうする間に一年くらいで何か身につくはずもない、ということに気付いて修士課程への進学を希望することになりました。当時はバブル直前でしたが就職状況も良く、いつでも就職はできるという時代だったことも背景にあります。院試の面接でもデキの悪さで大恥をかきましたが、そのことがきっかけとなり、修論での汚名返上を目指すことになりました。そうこうする間に研究にのめり込み始め、気がつけば博士課程に進学していました。博士課程で設定した「土壤中のアントラキノン色素の分布特性の解明」という題目は、学会や世間の動向とはまったく外れたもので、指導教員の東順三先生をずいぶんと心配させました。天然物有機化学の視点で土壤有機物を研究するという内容で、幸い、ユニークさと周囲の懐の深さで成果を認めて頂き（変わっている内容という点だけ）学位を取得できました。その後、学振特別研究員や食品

栄養学の金沢和樹先生のお世話で女子短大での非常勤講師などを務める中、自然科学研究科の5年任期付き助手に採用されました。博士以来のテーマは継続して行っていましたが、現在は首都大学東京でご活躍の川東正幸先生を指導することになり、彼の関心が土壤有機物の王道である「腐植物質」にあったことから、これまでの課題で培ったテクニックで腐植物質を解明するという命題に取り組み始めました。東先生の退官に伴い、高橋竹彦先生に農学部助手として拾って頂くことになり、森と土壤有機物の関係について一緒に仕事をしていくことを語り合っていた矢先、神戸の震災、高橋先生の突然の逝去、それに伴う新しい教授や助教授をほぼ同時に迎えるなどの混乱期を経ました。同時に、こうした特殊事情もあり、通常より多くの学生諸氏を指導させていただくことになり、その学生らに支えられたおかげで、土壤有機物の研究といえば神戸大学?といわれるような今日を迎えています。

現在の研究課題の中心は、腐植物質と呼ばれる未知ではあるが環境中で様々な重要な役割を果たす成分について、多角的な取り組みを行っています。腐植物質は土壤だけではなく、河川や湖沼、海洋にまで広がる天然物で、地球温暖化や気候変動と密接な関係を持つことから、国内各地での土壤採取や調査はもとより、琵琶湖や河川に船で出たり、スコットランド、フィンランド、チベット高原などの諸外国にも足を伸ばして研究を展開しています。学生時代に無謀な海外渡航を繰り返した冒險心を仕事で満たしているとも言えます。いつの間にか高橋先生と語り合っていた森と土壤有機物の関係が私のメインテーマになっていることや、指導した学生によって意外な分野でのシンポジウムに招かれたりと、つくづく思うのはいろいろな人の因果です。世の中は狭く、意外なところで多くの人との出会いや協力を得るなかで、今日の自分があるとつくづく思う年頃になりました。今後も土壤学研究室や神大農学部の名を辱めないように鋭意努力し、人との繋がりを大切に研鑽を積むつもりです。皆様よろしくご指導下さい。

## 同窓生は今…

シンジエンタジャパン株式会社  
執行役員 北東アジア地区 研究開発本部長  
**橋野 洋二**  
1985年農学研究科(植物防疫学専攻)修士修了



10月のある日同級の松山稔君から本会報への寄稿依頼が舞い込んできました。一昨年に植防の同期会を開催した時に約束してくれたよねという念書とともに、何でもいいから近況報告してということでしたので快諾した次第です。

まずは、自己紹介ですが、大学時代および大学院ともに応用昆虫学教室で学び、奥谷先生、桃井先生、内藤先生、そして竹田先生の教えをいただきました。大学院を1985年に卒業し、当時宝塚に研究所を構えていたチバガイギーという医薬・顔料・染料・プラスチック、農薬を柱とするスイスの外資系化学会社に就職し、農薬研究部に配属されました。当時の企業就職は今に比べるとはるかにのんびりしたもので、企業研究などせずとも簡単に会社に潜り込めたのはラッキーだったと思い返しております。現在、研究開発職への就職を目指すたくさんの学生さんと面接しますが、本当に優秀な方が多く、今なら自分自身は確実に採用されないなと思いながら、偉そうなことを言っています。

ところで入社後ですが、応用昆虫学を専攻していましたので、殺虫剤関連の仕事をするのかと思いきや、除草剤のスクリーニングが最初に与えられた仕事でした。2年ほどこの仕事に従事した後、本来のバックグラウンドを生かせる殺虫剤の評価および開発の仕事ができるようになり、俄然仕事も面白くなってきました。当時、ルフェスロン、ピメトロジン、シロマジン、チアメトキサムなどの殺虫剤の生物プロファイリング、作用機作の解明、開発業務を担当し製品に仕上げていきました。今でも、自分の子供のように思えます。

私が入社した1980年代は、経済が成長し、すべてが快調に展開していく経済環境でしたが、1990年代に入ると経済に停滞感が漂い始め、様々な業界で合併連合が始まりました。私たちの業界も例にたがわず、1997年にはチバガイギーは同じスイスの化学会社サンドと合併しノバルティスとなりました。そして、2000年には、ノバルティスは医薬専業会社となるべく、農薬部門や化学部門をスピナウトし、同様に農薬部門をスピナウトしたゼネカの農薬部門が合併し、農業分野をドメインとするシンジエンタが出来上がりました。会社の変遷とともに会社の戦略も大きく様変わりし、研究開発志向からマーケティング志

向が強まっているのが現状です。私自身はその変遷の中で、前述した殺虫剤の開発を卒業し、製品マネージャー、作物マーケティング、農薬登録、農薬の研究開発を経たのち、現在の職に就きました。現在は、農薬および種子の研究開発を見ております。特に最近は、日本、韓国、台湾の3か国をまたいで種子・農薬技術の研究開発の両面からどのようなシナジーが生み出せるかを模索しています。

前述した会社の変遷とともに職務も変わりましたが、大学時代の経験と照らし合わせてみると、今の自分がいる背景には学生時代の経験が様々な場面で役に立っていることを思い起こさせてくれます。一つは、英語です。高校時代英語は不得意科目の一つでした。大学院のころ、海外経験を積まれて助手に赴任された竹田先生に尻を叩かれて、英語で修士論文を書いたのが外資系会社に入ったきっかけかもしれません。入社後は、海外出張、滞在、本社との英語コミュニケーション等現場で苦しみながらなんとか耐えしのいできました。修士論文作成時にご指導いただいた竹田先生および内藤先生に改めて感謝いたします。もう一つは、仮説と実証のプロセス。卒論・修論を遂行していく中で、推論・仮説を立てて実験で証明していくというプロセスですが、やはり一番大事なのは仮説前提の確かしさと推論のロジックが大事であること。現在ビジネスを展開する中で、この大切さを実感しています。また、体力の大切さ。大学・大学院時代を通じて長峰山や雄・雌甲山でのフィールド研究を通じて鍛えた体力は今でも役に立っています。そして最後に、大学を通じてのネットワーク。農業関連の業界ですので、会社間の交流、都道府県の研究所との交流をするとたくさんの同窓生と出会えますし、いろいろな面で助けていただけます。

今回は、過去の変遷を含めた現在の自分と大学の関わりを改めて回顧する機会を与えていただきありがとうございました。取り留めもない記述になったことをお詫びします。末筆ですが、大変お世話になった同級生で2010年にご逝去された清水君のご冥福をお祈りします。

## 第7回 神戸大学ホームカミングデイの開催



冒頭の挨拶で福田秀樹学長は、神戸大学の国際的な活動に触れながら、本学卒業生山中伸弥氏（京都大学教授）の今年度ノーベル生理学・医学賞受賞を取り上げ、「山中教授に続き本学から第二・第三のノーベル賞受賞者が出ることを期待します」と語られました。

また、神戸大学同窓会のネットワーク事業構築に尽力された留学卒業生、韓国出身の南相水（ナム・サンス）氏とタイ出身のプラパン・ヘータクン氏に学長特別表彰として「神戸大学功労賞」が授与（いずれも代理の方）されました。次に学友会（同窓会の全学組織）会長高崎正弘氏が挨拶、母校発展のための更なる協力・援助を呼びかけました。

続いて、川崎重工〔株〕取締役会長大橋忠晴氏（神戸商工会議所会頭・工学部卒）が「神戸と私」と題して記念講演され、幼い時から会社での重責を果たされるまでの自分自身の人生観を神戸の地と関連させながらユーモアを交えて語られました。

最後に神戸大学ブルーグラスサークル「キミドリ」（5人編成）による3曲の演奏があり、田中康秀副学長の挨拶で式典は閉じました。12時頃からはアカデミア館1階食堂でティーパーティーが開かれ、多数の参加者が懇親を深めました。なお、今回も留学生ホームカミングデイが同時開催され、午後から神戸大学百年記念館で多数の各国留学生（卒業生も含む）が参加しました。

午後には各学部に別れましたが、農学部キャンパスで開かれた農学部企画についての概要を報告します。1時半から内田一徳農学部長の挨拶（農学部近況報告）で幕開けし、長年六箇会会長を努められた北浦義久氏に対し「六箇会および農学部の発展に寄与された貢献」として学部長から「感謝状」が手渡されました。

続いて、六箇会新会長に就任された王子善清氏の挨拶、

担当理事 山本 博昭（兵A12）

第7回神戸大学ホームカミングデイが平成24年10月27日（土）、神戸大学全キャンパスで開催されました。

例年通り午前10時半から全学規模の記念式典が、毎日放送アナウンサー斎藤裕美さん（海事科学部卒）の司会で出光佐三記念六甲台講堂（登録有形文化財）にて開かれました。

昨年から始まった六箇賞授与式が行われ、六箇業績賞として万年英之氏（応用動物学講座）および六箇若手賞として笛崎晋史氏（応用動物学講座）と井上一哉氏（生産環境工学講座）の計3名に王子会長から賞状と副賞が手渡されました。その後万年氏による受賞講演「アジア在来家畜の現地調査と家畜牛の起源」がありました。万年氏は六箇会会員の若手教授で日本農学賞、読売科学賞、文部科学大臣表彰・科学技術賞、学長表彰等を受けられ、その活躍は素晴らしいものがあります。

次に、OBによる講演、中村真人氏（農村工学研究所・主任研究員）の「家畜排せつ物から肥料とエネルギーを作る!!」および、学生による講演、島田遙さんの「地下水の硝酸汚染軽減に向けた鉄粉の利用に関する実験的検討」、東若菜さんの「地上100mの水ストレスセコイアメスギの水分生理学的研究」、立花典子さんの「植物色素の耐久性を向上させる分子機構の検討」、いずれも大学院修士2回の女子学生による講演がありました。また、講演会場前では、3名の男子修学生によるポスター発表、「中山間地域の農業振興施策の変遷と効果に関する研究」（林健介君）、「牛肉のおいしさに関わる遺伝子の探索」（山地啓太君）、「シロイスナズナMEKK1の活性メカニズム」（古谷朋之君）もあり、盛り沢山な企画に参加者は大忙でした。

午後5時頃から行われた懇親会は新装なった学生ホールで開かれ会場が満杯になりました。中村千春理事（副学長）他の挨拶の後、賑やかな歓談の中で幕を閉じました。

なお、今回も当日「農学部退職教官懇談会」が開かれており、懐かしい先生方のお顔も見ることが出来ますので、大学、学部ホームページ等で検索の上来年以降六箇会各位が多数参加されることを期待します。

# 六篠会総会報告

## 同窓会の交流と発展を目指して…

理事(庶務) 乾 秀之 (神・P・25)

平成24年7月21日(土)、午後3時から神戸大学瀧川記念学術交流会館において、六篠会の「総会」を開催し、六篠会の事業活動及び予算・決算などについて審議し、それぞれについて了承を得ましたので報告いたします。

- 1) 第1号議案 平成23年度六篠会事業報告  
並びに収支決算について
- 2) 第2号議案 六篠会役員の選任について
- 3) 第3号議案 平成24年度六篠会事業計画(案)  
並びに収支予算(案)について
- 4) そ の 他 六篠賞規定の変更について

はじめに、伊藤副会長から総会開会が宣言された。続いて北浦会長(兵・A・6回)から、六篠会代議員及び役員に対して活動協力へのお礼の言葉をいただきました。

その後、議長の選出については、立候補者がいなかつたため、代議員の坂井永利氏(兵・A・12回)、吉倉惇一郎氏(兵・C・16回)を議長に推薦し、同意が得られたため任命し議事に入りました。

### 平成23年度六篠会事業実績と収支決算

まず、第1号議案の平成23年度六篠会事業実績については、

- ①六篠会総会をはじめ理事会の開催
- ②入学者の同窓会入会勧誘・記念品の贈呈  
(入会者: 学部・修士・博士、計179名)
- ③六篠賞をはじめ教員・学生の学術活動に対する援助
- ④六甲祭・六甲山マラソン大会など学生活動に対する援助
- ⑤卒業者(卒業生180名・修了生144名)の卒業記念  
パーティー等に対する援助
- ⑥農学部への援助
- ⑦会報の発行(7,202部発送)
- ⑧同窓会の支部活動に対する援助(関東支部・東海  
支部・KOBE市役所支部・兵庫県庁支部・広島支部)
- ⑨学友会などの他学部の同窓会との交流

などの活動を実施しました。

また、収支決算については、前記事業実施に要する経費として予算執行いたしました。また、収入の部は、新規会員が179名とほぼ予定通りの入会金を確保できたこと、さらに支出の部にあっても、その結果については、5月11日に監事である



辻莊一氏(兵・Z・12回)、外山眞里さん(神・C・8回)の2名に監査していただき、代議員総会当日には「適正に執行されている」旨の報告を受けました。

### 六篠会役員の選任

第2号議案の六篠会役員の選任については、北浦会長から新役員についての理事一覧が示され、質疑の結果、全理事が承認されました。休会を挟み、王子善清氏(兵・C・12回)を新会長とすることが示され、了承されました。北浦前会長の退任のごあいさつをいただき、続いて王子新会長の着任のごあいさつをいただきました。

### 平成24年度事業計画等

第3号議案の平成24年度事業計画(案)及び収支予算(案)については、例年どおりの計画を実施することになりました。12月に行われるマラソン大会への援助の経緯について質問がありました。橋本前庶務担当理事から、マラソン大会は土壤学研究室が中心となって古くから行われており、六甲ケーブル山上駅から六甲山頂を経由して農学部に戻ってくるコースを教員、学生、大学院生、卒業生が走る大会であり、相互の親睦が目的であるとの説明がありました。

### その他の事項

六篠賞授与規定について一部変更したことを報告しました。代表理事である伊藤一幸氏(神・A・9回)学生、院生、教員への六篠賞は神戸大学農学部活性化の一助になっている、との説明がありました。

代議員から総会参加者数が少ないが、会員全員に案内を出しているのかどうか質問がありました。伊藤代表理事から総会案内は全会員(はがき7,000枚余)に出しているとの回答がありました。

なお、収支決算書及び収支予算書は、最終ページに掲載しております。

## KōBE六箇会

藤原 啓 (農学研究科 生命機能科学専攻)

KOBE六箇会は、兵庫農科大学、兵庫県立農業短期大学及び神戸大学農学部を卒業し、神戸市に勤務する者を会員として、昭和59年に結成されました。現在会は、会員137名（現職会員77名、OB会員54名、名誉会員6名）を数えています。

役職名	氏名	卒業・回生	所属（勤務先）
会長	渋谷 一郎	52年・神C 8回	保健福祉局 北衛生監視事務所
副会長	森川 功一	55年・神C 11回	環境局 環境評価共生推進室
"	安原 潤	59年・神A 15回	産業振興局 農水産課
"	鈴木 壽也	59年・神P 15回	産業振興局 中央卸売市場本場
幹事	八木 正博	56年・神C 12回	保健福祉局 環境保健研究所
"	長沢 秀起	57年・神A 13回	産業振興局 農水産課
"	藤井 俊宏	58年・神C 14回	保健福祉局 予防衛生課
"	向井 茂樹	2年・神A 21回	産業振興局 農業振興センター
"	景山 敏一	2年・神T 21回	みなと総局 臨海整備事務所
"	長浜 廉治	2年・神T 21回	神戸市都市整備公社 都市整備課
"	岡野 光世	3年・神A 22回	産業振興局 中央卸売市場東部市場
"	為国 司	5年・神C 23回	環境局 地球環境課
"	角村 朝葉	9年・神A 28回	産業振興局 農業振興センター
"	大窪 道明	14年・修 29回	産業振興局 農水産課
"	磯野 和彦	14年・神 33回	環境局 環境未来都市推進室
監事	平井 朗	52年・神C 8回	保健福祉局 東部衛生監視事務所
"	林 昌弘	60年・神A 16回	神戸みのりの公社 総務部
"	松宮 道生	60年・神A 16回	神戸市公園緑化協会 公園緑地課

会員の採用区分は教職、農業、化学、衛生監視（農芸化学、畜産）から一般行政まで幅広く、また勤務先も中学校（教員）、環境局（廃棄物や環境保全に関わる仕事）、保健所や区役所（地域振興、食品衛生・環境衛生・動物衛生に関わる仕事）、産業振興局（農・水産・畜産業の農政振興に関わる仕事）、建設局（道路、下水道、公園などの土木関係の仕事）、水道局（水質検査などの仕事）のほか、フルーツ・フラワーパーク・・・など多岐にわたっており、安全で安心なまち「こうべ」の実現に向けて、それぞれの職場・立場で会員

一丸となって取り組んでいます。

私は平成21年に農業職で採用され、現在は北区役所に勤務しています。北区においても住民の高齢化が進み、農村地域では担い手の不足が深刻な問題となっています。担い手となる農業者を確保するため、特に高齢農家に対し、自家消費にとどまっている野菜の栽培を少し頑張って生産を拡大してもらい、直売所への出荷量を確保することにより、地域で出荷のとりまとめを行う仕組みづくりを応援しています。高齢農家の生き甲斐と健康づくりにつなげ、地域全体の活性化に取り組んでいます。

最近の農政のキーワードは地産地消です。神戸市では様々な特徴のある農作物が生産され、直売所などで販売されています。皆様も見かけられましたらお試しいただけたらと思います。

なお、本会の活動は、年1回の総会・懇親会の開催と名簿の発行が中心となっています。総会・懇親会では、農学部長や六箇会会长等のご出席をいただき、大学の近況を伺ったり、思い出話に花を咲かせたり、会員間の情報交換を進めたりと親睦を深める良い機会となっています。

今後とも、「同窓生意識」をより一層高めていく努力を続けていきたいと考えています。



## 県六箇会からの報告

県六箇会 中野 晴之 (神Z11回)

今年度、県六箇会は、設立31年目を迎えることとなりました。11月24日にANAクラウンホテル神戸において、神戸大学より中村千春神戸大学理事・副学長、内田一徳大学院農学研究科長・学部長をお迎えし、平成24年度県六箇会総会及び懇親会を開催いたしました。

総会は、38名の出席者のもと、三浦恒夫会長の主催者挨拶の後、中村副学長、内田研究科長、六箇会の王子善清新会長からの来賓挨拶を賜り、全議案の協議・承認を経て盛会裡のうちに終えることができました。

その後、懇親会をOB1回生の田中平義先輩による、日本酒での乾杯で始めさせて頂きました。大学の先生、OB、行政、試験研究、普及の同窓生が集い、お互い現状報告とともに懐かしい話に楽しく心温まる時を過ごすことができました。この日は、県の農業行政を携わる県六箇会の現役会員にとって、新たな

出発となる良き一日となったと深く感じたところです。

最後になりましたが、県六箇会を支えてくださっている母校の先生方、六箇会会長を始め多くの皆様方に改めて感謝を申し上げますとともに、総勢218名（うち現役県職員132名）の会員が、お互いの結びつきをさらに高めることを通じて六箇会が隆盛することを期し、支部からのご報告とさせていただきます。



## 関東支部の活動状況

関東支部長 岸谷 靖雄 (兵A10)

今年の六篠会関東支部総会は10月26日神戸大学東京六甲クラブにおいて29名参加のもと開催した。残念だったのは翌日ホームカミングデイのため、本部から王子新会長のご出席を戴けなかった事である。支部長挨拶、決算報告に続いて今年は青山 洋氏（兵C41）に「炭酸ガス説に対抗するスペンスマルクの宇宙線・雲説」という演題でご講演をお願いした。青山氏は現在翻訳を中心とした仕事をされており、今回はスペンスマルクが著わし青山氏が翻訳した「不機嫌な太陽」という科学書をもとにお話しをされた。簡単に言うと、地球温暖化は二酸化炭素による温室効果ガス説が主流だが、この説は太陽・宇宙線による温暖化を解く宇宙気候学からアプローチした学説である。難しいお話しであったが非常に興味深かった。講演のあと懇親会を開催、お互いに懇親を深め21時過ぎ再会を誓って閉会した。又六篠会担当の木曜会は3月22日幣 洋明氏（兵C31）に「新しい平年値からみた日本の天気予測」という演題でご講演をお願いした。出席者は学部関係なく30名近い方々が出席した。気温の平年値は数十年間に渡って大きく変化する

ことが無かつたが、最近は地球温暖化の影響を受けて10年ごとに大きく変化しているそうである。

昨年度発足をした神戸大学東京六甲クラブは二年目に入り会員増強に苦戦を強いられている。六篠会会員で六甲クラブに入会された卒業生は、昨年度31名であった。しかし今年度に入って9月現在16名、その後数名が加入されたが、まだ昨年度の人数には達していない。六甲クラブ全体としても昨年度より少なく、クラブ全体としてまた六篠会独自として色々対策を行っている。例えば今年に入ってクラブの内装を新しくしたり、会合時における料理の改善を行っている。しかしこれまで六甲クラブの存在を知らない卒業生もいる。今後は特に若い卒業生の勧誘が必要である。六篠会としても全面的に協力をしなければならないと考えている。今後は若い卒業生に総会、木曜会等への参加と六甲クラブの利用を訴えて行きたい。これは毎年課題としてあげているが、今後も続けていかなければならないであろう。

今後とも六篠会本部をはじめ皆様方の関東支部へのご協力とご指導をお願い致します。

## 東海支部

東海支部長 長谷川 信弘 (兵C16)

東海支部では、平成24年11月4日に支部総会を開催しました。開催に当り、支部会報を作製し、支部総会開催案内と共に発送しました。総会の前には、10月27日の神戸大学ホームカミングデイの風景写真をスライドで流し、その中には、名武先生の姿も見え、支部総会参加者からは「懐かしい!!元気そう。」の声も聞かれました。今回は、新会長・王子先生を迎え、本部からの挨拶を受けました。その中では、地球環境を取り巻く情勢の下で、農業の重要性が認識され、その結果、農学部の認識が高まり、受験生の質・量が増大し、神戸大学の中でも、認知度が高まったと聞き、嬉しく思いました。

王子新会長には、折角来名される事になりますので、先生のご研究の一端を披露して頂く様、お願いしました処、快諾を得、今回の支部総会で講演をして頂きました。演題は「植物の成長における夜の役割—根と葉の窒素同化の面から—」。支部総会の参加者の中で、肥料・植物栄養研究室の卒業生からは懐かしい酵素名や反応式を見て、学生時代を思い出されていました。卒業して40年以上経過していますので、王子先生の話の15%程度しか飲み込めないが、学生時代を思い起こされて

嬉しいと言う感想が述べられていました。懇親会では、王子先生を囲み、篠山や神戸での大学時代の話が盛り上がりいました。

年一回の交流ですが、皆様楽しみにしておられます。これからも東海支部の活動を広めて行きたいと考えています。東海支部には約二百名程の卒業生が在籍していますが、更に参加者を増大させる努力をしたいと考えています。

PS 本年度東海支部物故者

吉田朝光 (兵Z8、製造、S35)

中村幹滋 (神Z10、製造、S54)



## ■ 広島支部近況

広島支部長 番匠 宏行 (兵Z13)

六篠会広島県支部は2008年に設立し、少人数ながらも毎年1回総会を継続しています。初回と2回目は広島市内のホテルで開きましたが、3回目は尾道市(燻りの館：北浦会長参加)で、昨年の4回目は東広島市(西条酒祭りに便乗：能宗副会長参加)で開催しました。

今年度は春の役員会で10月27日に福山市鞆町での開催を決定しました。その後、当日が神戸大学のホームカミングデーと判明しましたので、日程変更をいろいろ画策しましたが、諸般の事情から日程を変えることが出来ませんでした。従って今回は本部の役員を派遣してもらうことはできないままで支部の総会を持つことになりました。

当時は、10時に福山駅で合流して車で鞆町に移動後、地元のボランティアガイドの案内で、約2時間鞆の浦の町内を散策しました。江戸時代末期に交易で栄えた鞆の町並みは第二次世界大戦でも被害はほとんどなかったそうで、繁栄した当時の建物、土蔵などが多く残っています。江戸時代に石で築かれた高さ11mの常夜燈や雁木(石段づくりの船着き場)も昔のままの状態が維持されています。町の中は道路が狭いために、

海を埋め立てて橋を架ける話もありましたが、町並みをできるだけ保存するために山側にトンネル道路を取り付ける方法になりそうですが、完成までは紆余曲折ありそうです。

12時半に鞆の対岸にある仙酔島へ市営渡船で渡り、歩いて5分の国民宿舎にて総会および懇親会を行い、3時頃に無事日程を終えました。次回は来年の4月から5月にかけて旧広島市民球場跡地などで開催される「ひろしま菓子博2013」に合わせて広島市内で行う予定で役員会にて協議することにしています。



ボランティアガイドに案内されて鞆の浦の散策風景、港の奥には常夜燈がある

## ■ KUC37会(昭和37年卒業)卒業50周年記念大会開催

– 神戸大学基金に528.2万円寄付と記念植樹・石碑を神戸大学に寄贈 –

KUC37会 住田 昭男 (兵Z10)

昭和37年卒業の文学部・教育学部・法学部・経済学部・理学部・工学部の7学部と同年卒業の兵庫農科大学・神戸商船大学の卒業生からなるKUC37会は、さる6月に卒業50周年大会を開催しました。

卒業20周年をスタートにして5年毎に行ってきた周年行事も今回7回目を迎える大きな節目としての50周年では、

- ①神戸大学基金に対する寄付
  - ②今までどの卒業年次も作成していない記念誌作成
- を柱に掲げて卒業50周年の記念大会を行いました。6月2日の大会当日には350人が参加して各行事が行われました。

六甲台記念講堂での総会では菅正徳実行委員長より福田秀樹学長に神戸大学基金への寄付金500万円の目録が贈呈されました。(後日の集計では528万円に達しています) また、神戸大学本館前庭に記念植樹とKUC37会を構成する7学部

名および2大学名を記した記念石碑を寄贈しました。

正門前大階段での参加者全員の記念撮影の後、BEL BOXにおいて懇親会を行い、散会時には参加者全員に卒業50周年記念会誌「この丘陵(おか)に」と記念集合写真を配布いたしました。

当日午前中には、希望者が深江学舎にある海事博物館と停泊中の練習船深江丸の見学の後、3台の貸切バスに分乗して各学部のキャンパスツアーを行い、現役女子学生の案内付きで六甲台ならびに鶴甲周辺の神戸大学の学舎をはじめ神戸大学キャンパスの現在の姿を巡回いたしました。

また、大会行事の行われた6月2日に相前後して、アカデミア館2階のオープンアカデミーにおいては、11日間にわたりKUC37会のメンバーによる作品展示会ギャラリーが開催され絵画・写真などの秀作が展示されました。

## 延喜会と神戸大学日本酒研究会

六篠会顧問 新家 龍 (兵C5回)

### 「飲酒萬流」と「酒造萬流」

今年の天候は、日本ばかりでなく世界各地で異常気象による被害が報じられました。日本の今秋も、その例に漏れず異常気象でしたが、お陰様で各地の紅葉が大変綺麗で久しぶりの「紅葉狩り」を楽しむことが出来たのは好結果の一つではありました。

さて、私は拙著「今夜から日本酒がうまくなる」(たま出版)の中で、日本酒の香味についてやや科学的に分析した内容を書いておりますが、やはり自然界の変化に応じて飲酒方法も変化すると感じています。例えば、古くから「酒道」(サドウ)の中では、秋の「重陽の節句」(旧暦9月9日)から春の「桃の節句」(旧暦3月3日)の間は、燗をして呑むようになっています。従って、その間以外は冷酒でも燗酒でも呑む人の好みによって自由にして宜しいとなっています。確かに飲酒萬流と酒造萬流が言われる所以かと思われます。

先ずお酒を味わうのは、専門家はブルーの蛇の目に入った「きき猪口」で鑑定することになります。私も現職の時に、大阪国

税局鑑定官室において特級と一級の審査に参加したことがあります。ブルーの蛇の目は、資料の「色」を鑑定するのに役立っています。最近の商品は例外中の例外だったと思います。活性炭処理を行って「色」を除去しますので無色透明になるのだと思われます。唯、脱色処理によって香味成分まで除去されないかと気にかかったことを思い出します。

特に、高級酒として一般化している「吟醸酒」は比較的低温と長時間かけて製造されたもので、バナナのような果物風の香りをもち、世界的にも醸造酒とされています。吟醸酒は、従って、その香りを楽しむために何時も冷酒として愛飲されています。

一方、世界で一番美味しい日本酒とは、芝浦工大の吉河修教授によれば、「燗冷まし」であるとされています。しかし、すべての日本酒がそうではなくて、「燗冷まし」に適したものを選択する必要があると条件がついています。いずれにしましても、適量飲酒の原則を守れば、昔から言われているように「百薬の長」であることには間違いないと私は信じております。

## KUCの活動について

理事 石賀 暢一 (神C1回)

KUC (Kobe University Clubの略) は神戸地区での全学部の同窓会員の交流をはかるべく、講演会、見学会、同好会(ゴルフコンペ、囲碁、英雄を語る会、旅行会)などを開催しています。六篠会から運営委員として坂井永利(兵A12)、中村直彦(神Z1)、石賀暢一(神C1)の3名が活動しています。

### (1) 定例講演会の開催 (年3回)

1回目は8月21日S41年神戸大学経済学部卒で丹波新聞会長 小田晋作氏に「丹波竜物語」と題して講演をいただきました。

2回目は11月1日S57年神戸大学医学部卒で神戸低侵襲ガン医療センター病院長 藤井正彦氏に「患者にやさしいガン医療への新しい取り組み」と題して講演をいただきました。

3回目は2月に予定しています。

### (2) 見学会の開催 (年1回)

5月1日に天満繁昌亭で「六甲の四人」と題した、神戸大学出身の露の団六、桂吉弥、林家竹丸、桂そらばの落語会を楽しみました。

### (3) KUC 同好会の開催状況

- ①KUCゴルフクラブ(年4回、今年は6、8、11、3月の開催で毎回30名前後の参加)
- ②英雄を語る会(原則として奇数月の第2火曜日に開催)
- ③囲碁同好会(原則として毎月第3月曜日に「海洋会」で開催で、毎回10名～20名の参加)
- ④旅行同好会(年1回)

### (4) 広報活動

神戸大学のホームページに神戸大学クラブ (KUC) の各種活動を掲載しています。

KUCは現在、本館牡丹園(神戸市中央区元町通1丁目11-20 Tel078-334-1323)に事務局をおいて活動をしています。KUCへの入会希望や講演会等の行事や同好会に参加希望される場合は運営委員または上記事務局へご連絡をお願いします。団塊の世代も65歳を超え、神戸大学のOBの学部を超えた交流会に参加されるのも選択肢の1つに加えていただき、第2の人生をより豊かにしていただければと思っています。

生命機能科学専攻・農環境生物学講座  
**昆虫多様性生態学  
 教育研究分野**

昆虫多様性生態学分野は、2012年4月に旧昆虫機能学分野の再編にともなって設けられた研究室です。新研究室では昆虫の多様性と生態について理解を深め、その保全的利用を進めるための教育と研究に取り組んでいます。現在の研究室は、教授1名、教育研究補助員1名、学術振興会特別研究員(学振)PD1名、博士課程後期課程2名(うち1名は学振DC)、博士課程前期課程5名、学部生5名の総勢15名から構成されており、以下のような研究を行っています。

◆天敵寄生蜂の多様性と生態の解明



昆虫やクモ類に寄生する小さな蜂の仲間である寄生蜂には農業・森林害虫の重要天敵が多く、国際研究による種多様性の解明と生態・遺伝情報の整備が待たれています。学振DCの渡辺は、昨年度フロリダ、本年度はロンドンとペテルスブルグの博物館を訪問し、ヒメバチ科寄生蜂の分類学的研究を進めています。ヒメバチ類の分類学は、故桃井節也名誉教授によって基礎が築かれた分野であり、その遺志をつぐものです。寄生蜂と寄主(宿主)生物の間には、食べる者と食べられる者が命がけで繰広げてきた長い共進化の歴史があります。学振PDの高須賀は、クモ類を寄主として利用するクモヒメバチ類に着目し、その巧妙な産卵行動や寄主クモ類を操作して造網行動を制御する機構について明らかにしようとしています。狩蜂や寄生蜂の行動解析は、故岩田久二雄名誉教授が世界に先駆けて開拓した研究分野であり、今後の研究展開が楽しみです。

ガ類害虫の天敵として期待される寄生蜂の一種、ギンケハラボソコマユバチには、通常の有性生殖を行う系統のほかに、雌だけで増殖を続ける無性系統が知られています。両者の繁殖様式を転換する仕組みが明らかになれば、天敵として優れた性質をもつ有性系統を交配と選抜によって育種し、それを増殖率の高い無性系統に転換・固定して利用することが可能になるかも知れません。大学院生の筒井らは、無性系統の卵成熟分裂と遺伝的特性について昨年度の日本応用動物昆虫学会大会で報告し、ポスター賞を受賞しました。我々は、本種の特異な生殖メカニズムや有性・無性系統間の遺伝関係のほか、日周活動性や季節適応などについて、多面的な研究を進めようとしています。

◆捕食性昆虫の生活史と食性的解明

ゴミシ類やホタル類などの捕食性昆虫には、害虫の天敵あるいは文化的昆虫として重要なものが少なくありません。我々は、これらの生活史や食性を解明し、保護・利用に役立てたいと考えています。これまで困難であった食性解明のために、ミ

教 授 前藤 薫

トコンドリア遺伝子の塩基配列を動物種の同定に利用するDNAバーコーディングや餌資源の由来を推定する安定同位体比分析など、新しい分析手法の応用を試みています。

◆植食性昆虫を巡る種間相互作用の解明

植物とそれを食べる植食性昆虫は、互いに強く影響を与えあって進化してきました。今春、博士号を取得した藤田はヤマモモの種子食昆虫に着目し、その奇妙な生活史をヤマモモの成年習性(豊凶)と関連づけて研究しています。また、櫻井らは内藤親彦名誉教授の遺産を継承し、ハバチ類の種分化や生活史の多様性について食草との相互作用を念頭においた研究を進めています。

◆昆虫による生態系サービスの評価

自然生態系から我々人間がうける恵みを「生態系サービス」と総称します。昆虫が介在する生態系サービスには、遺骸分解、花粉媒介、害虫制御、文化的価値などがあり、それらを増進するための研究が重要です。現在は(独)森林総合研究所などと共に、森林のタイプや面積の違いがニホンミツバチ等の花粉媒介昆虫あるいはスズメバチ類等の天敵昆虫の多様性や豊富さに与える効果を、国土スケールあるいはアジア地域スケールで評価する研究に参画しています。

旧研究室で指導した卒業生や大学院修了生の多くは、農薬・天敵産業や情報産業、商社を含む多彩な民間企業、農業系の独立行政法人、私立公立学校、自治体、農林水産省(本省、林野庁、植物防疫所)等で活躍しています。いよいよ子育てに突入しつつある世代でもあり、生き物科学に深くコミットした経験を生活と社会活動のなかに活かして欲しいと思っています。

なお、研究室の近況については、以下のホームページにも掲載していますので、ご参照ください。

<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/ans-insect/>  
<http://kobe-insect-bioecosys.jimdo.com/>



資源生命科学専攻・応用動物学講座  
**生殖生物学研究分野**  
**発生工学研究分野**

教 授	三宅 正史	(発生工学)
教 授	宮野 隆	(生殖生物学)
准 教 授	原山 洋	(生殖生物学)
特命助教	李 智博	(発生工学)

現在資源生命科学専攻に存在する2つの研究分野「生殖生物学」と「発生工学」は、元々『繁殖（家畜繁殖学研究室の略）』と呼ばれていた1つの研究室を母体としています。卒業生の方々には、その呼び名の方が馴染み深い方もいらっしゃるでしょうし、現在もゼミなどの研究室行事を両研究分野で一緒に行っていますので、この紹介文では両研究分野を併せて『繁殖』の研究室として紹介します。

今年度（2012年現在）、『繁殖』研究室には、博士後期課程（社会人含む）5人、博士前期課程13人、学部4年生7人の計25人の学生が在籍し、かなり大規模な研究室となっています。実験室は自然科学総合研究棟2号棟116号室にあり、そこで学生は日々（？）勉学と実験に勤しんでいます。研究室では、ウシ・ブタ・マウスを実験材料に、哺乳類の生殖や発生に関するメカニズムを分子レベルで解明する基礎研究から、家畜の新たな繁殖方法の開発という応用研究まで、幅広い研究が行われています。各教員は個別のテーマを持っており、三宅は「初期胚の発生」、宮野は「卵母細胞の発育・成熟」、原山は「精子の形成と受精能獲得」、李（2011年度に理化学研究所から神戸大学へ赴任）は「減数分裂」を主に研究しています。

ここ10年ぐらいの歴史を振り返ると、当研究室は、神戸大学が採択された大型プロジェクトと共に歩んできたと言えるかもしれません。2002～2006年度の21世紀COEプログラム「蛋白質のシグナル伝達機能」のメンバーに三宅と宮野が、2007～2011年度のグローバルCOE「統合的膜生物学の国際教育研究拠点」のメンバーに宮野が加わっています。特に21世紀COEプログラムでは、当時COE研究員として採用されてい

た李と大串（ともに当研究室の卒業生）が、特筆すべき研究成果をあげています。李が主体となって行った「哺乳類の減数分裂と体細胞分裂に共通するセントロメア接着の保護機構」に関する論文はNature Cell Biologyに、大串素雅子（現京都大学所属）が主体となって行った「卵母細胞の核小体」に関する研究はScienceに、ともに2008年度に掲載されました。Science誌に掲載された論文は、多くの新聞にも取り上げられたのでご存知の方もいらっしゃるかも知れません。また、最近の出来事としては、原山が2012年度日本繁殖生物学会賞・学術賞を「哺乳類精子の細胞内cAMPシグナル伝達機構に関する研究」で受賞し、李も同年・同学会の奨励賞を「哺乳類減数分裂における染色体動態の分子機構」で受賞しました。学生も様々な関連学会で活躍し、毎年のように優秀発表賞などの賞を受賞しています。残念ながら、誌面の都合上ここでは紹介できませんが、個々の受賞や研究成果については研究室のホームページをご覧下さい

(<http://www.research.kobe-u.ac.jp/ans-reprod/>)。

「生殖生物学」や「発生工学」という研究分野は、最近巷でも話題となることが多いクローリン研究やES細胞・iPS細胞などの幹細胞研究と無縁ではなく、農学・理学・医学などの垣根が取り払われつつある研究領域です。当然、研究進展のスピードは加速し、研究競争も激しい分野と言えます。しかし、我々の研究室は、流行の研究には手を出さず、独自の研究テーマで業績を積み上げてきています。これが結果的に激化する研究競争を避けるとともに、上述のような研究成果や受賞に繋がっているのだと思います。それだけに固定観念にとらわれない自由な発想に基づく研究を行うことが重要であると考えています。最近の世の中は「管理」と「規制」で窮屈に感じられる方が多いと思われますが、大学もその例外ではありません。しかし、自由な発想を生み出すためのゆとりある研究環境は、守っていかなければなりません。『繁殖』研究室の伝統は、卒業生なら誰もが認めると思いますが、良くも悪くも「自由」のことです。今後も、学生が自由に活躍し、おもしろい研究が成される場として研究室が発展していくことを願っています。毎年5月のゴルデンウィークには卒業生も参加してのバーベキューパーティーを開いています。神戸にお越しの際は、一度お立ち寄り下さい。



資源生命科学専攻・応用植物学講座  
**森林資源学  
 教育研究分野**

教授 黒田 慶子  
 准教授 石井 弘明

森林資源学教育研究分野は、初代の教授が2年前に退官され、現在は教授1名、准教授1名、博士課程前期課程6名、学部生10名の合計18名で構成されています。神戸大学には林学や森林科学系の学科がなく、当研究室が唯一の森林関連研究室になります。森林資源学分野は森林生態学、樹木生理学、組織学、森林病理学などを基盤として、人工林や里山、原生林、社寺林、都市緑地など様々なタイプの森林の特性を把握し、適切な管理手法を見つけることを研究の目標としています。森林資源を有効に活用し、しかも同時に生態系や生物多様性を維持することが重要な課題です。森林資源とは、木材のような物質資源だけでなく、癒しの場として私達の生活環境の向上に寄与するような広義の資源（機能）を含んでおり、そのような森林の機能は「生態系サービス」とも呼ばれます。森林の放置や管理不足が社会問題となる中で、森林の機能をどのように發揮させるのか、また、二酸化炭素吸収源としての森林の役割など、研究の課題は近年増加しています。

当研究室の研究テーマは二つあります。その一つは樹木の光合成や水利用に関する生理学的な研究です。樹冠に降り注ぐ太陽エネルギーを樹木はどこまで無駄なく効率的に利用しているのか、樹木の生存と成長に不可欠な水は根から枝葉にどのように届けられているのか、葉の耐乾性や耐陰性などについて研究を進めています。また、樹幹の水の通路である道管や仮道管の配列のような解剖学的な情報と樹木の生理機能との関係にも注目しています。このテーマの応用研究としては、都市緑地や社寺林の維持のための取り組みがあります。社寺林は身近な自然として住民に親しまれていますが、都市環境下で自然性の高い森林を維持するのは困難で、園芸品種の侵入や樹木の衰退など様々な問題が起こっています。西宮神社の森では、侵入種除去と生態系復元のための調査・研究を行っています。また、原生林・巨樹・巨木に関する研究も重要です。巨樹の寿命や大きさを規定する水輸送の機能を解明するため、tree climbingの技術を活用し、樹高100mのセコイアメスギなどの先端から試料を採取して研究を行っています。これらの成果は天然記念物の巨樹の維持管理手法の確立につながります。

もう一つの研究テーマは森林生態系の健全性に関する病理学的研究です。森林には、樹木を加害する昆虫や枯死させる微生物が生息しており、時には重大な集団枯死が起こります。100年前に北米から侵入したマツ材線虫病（マツ枯れ）や近年増加しているナラ枯れでは、病原体が樹木を短期間で枯死させます。大径木の大量枯死は森林の生態系を急激に変化させ、他の生物の生息環境にも影響します。このような病気の発病メカニズムや抵抗性発現に関する基礎研究は、森林を健康

に持続させるために重要です。病原体の侵入に対する樹木細胞の防御反応の起り方や、その防御が破られる条件などについて研究を進めています。応用研究としては、里山林の管理手法の検討を行っています。近年人々の注目が集まる里山の林は天然林と呼ばれることもありますが、実は数百年以上も燃料や肥料などに使われて維持されてきた二次林です。その里山は約半世紀前に始まった燃料革命以降に放置されて、健康状態が悪化しています。人が管理してきた森林を放置しても原生林にはならず、予想外の現象が起こること、伝統的な定期伐採で森林を若齢化させることができることなどを示していました。現在は篠山市の里山林に試験地を設定し、マツやナラ類その他の多種の樹木で構成される林を健康に持続させる管理手法について、自治体への提案も行っています。

樹木は長寿で、森林はゆっくり成長するため、森林を持続的に管理・保全するには、50～100年先の森林の姿をイメージする必要があります。当分野では長期的な展望を持って、森林の保護管理や環境問題に取り組める人材の育成を目指しています。3年生後期に分属してきた学生にはフィールドでの教育を行い、その後に卒業研究のテーマを決定します。昨年度には、神戸大学は樹木医補の認定機関に登録されました。この資格は学部で規定の科目を履修すると卒業時に取得でき、資格取得後1年の業務経験（大学院も可）を経て、樹木医研修のための受験資格が得られます。通常は7年以上の業務経験（造園、公園管理等）が受験に必要なので、樹木医補は樹木医への近道となります。樹木医は地方自治体の公園管理や造園関連企業で重要な役目を果たすようになっています。当研究室だけでなく他分野の学生も資格が取得でき、今後多くの方が樹木医として活躍されることを期待しています。研究室の詳細は、黒田慶子（教授）および石井弘明（准教授）のホームページをご覧ください。

<http://www2.kobe-u.ac.jp/~kurodak/>  
<http://www2.kobe-u.ac.jp/~hishii/>

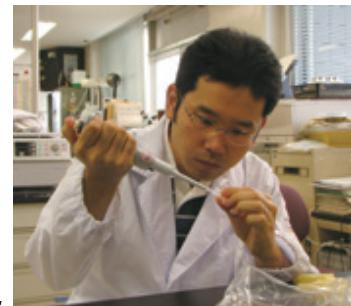


# 研究最前線

## ウリ科植物はなぜ脂溶性汚染物質をためこむのか? -環境浄化への応用-

農環境生物学講座  
環境物質科学研究室  
自然科学系先端融合研究環  
遺伝子実験センター  
環境遺伝子機能解析研究分野

准教授 乾 秀之



### 脂溶性汚染物質による環境汚染

我々は様々な化学物質を作り出し、それらを使って便利な道具を生み出し、そして快適に生活することを目指してきました。しかしながら、化学物質の中には当初予想もしなかった悪い影響を持つものがありました。一部のプラスチックの原料として使われているビスフェノールAや洗剤の分解物であるノニルフェノールなどを含む内分泌擾乱化学物質、いわゆる環境ホルモンはその代表的な例といえます。また、かつて「夢の農薬」とうたわれた殺虫剤のDDTや絶縁油として工業製品に広く使用されていたポリ塩化ビフェニル(PCB)、ゴミの焼却によって発生するダイオキシン類などもこれにあげられます。特に、これら汚染物質は残留性有機汚染物質(Persistent organic pollutants、POPs)と呼ばれ、ストックホルム条約により難分解性、高蓄積性、長距離移動性並びに人の健康または環境への有害性を有するため、その製造・使用、輸出入が禁止・制限されています。しかしながら、このような物質は我々の日常生活から少しずつ環境に流れ出し、極めて低濃度ですが河川、湖沼などの水系、そして農耕地を広く汚染しています。また、脂溶性、残留性という特異な性質を持ち合わせているため、我々のような食物連鎖の上位に位置する動物に高濃度に蓄積してしまいます<図1>。脂溶性、残留性とは、油に溶けやすく水に溶けにくい、微生物などによって分解を受けにくく、環境に残りやすい性質のことを指します。このような性質のために、ダイオキシン類が汚染するはずのない北極に住む野生動物から高濃度に検出されたり、30年以上も前に使用が禁止された殺虫剤がキュウリ、カボチャなどから検出されたり、ゴミ焼却施設の周辺の土壤から高濃度のダイオキシン類が検出されたりしています。

このような汚染物質が環境、特に土壤を汚染した場合、主に汚染土壤を掘削して除去したり、汚染程度の低い土壤と入れ替えたりといった物理的方法による浄化が行われます。しかし、多額の費用が必要となるため浄化されないまま放置されるケースが後を絶ちません。

### 植物による汚染物質の取り込み

植物はその生長に必要な水や栄養分を根を通して吸収します。水に溶けやすい汚染物質はこの経路を通り水の吸収とともに植物に取り込まれ、その体内に蓄積します。このように環境から汚染物質を植物に取り込ませ、その植物を除去することにより環境浄化する方法をファイトレメディエーション(Phytoremediation)と言います。この方法は、植物が持つ広い根系を利用できるため広範囲から、しかも低濃度の汚染物質を浄化することが可能です。さらに、最大の特徴は光エネルギーを利用して環境浄化できるため、浄化にかかる費用が少なくて済むということです。

しかしながら、脂溶性の高い汚染物質は水に溶けにくいため、このような経路では植物に取り込まれません。したがって、脂溶性汚染物質のファイトレメディエーションはとても難しいと考えられています。裏を返せば、一般には脂溶性汚染物質による作物汚染はその地上部、特に葉や果実に限っては起こらないと言えます。

### ウリ科植物の知られざる特徴

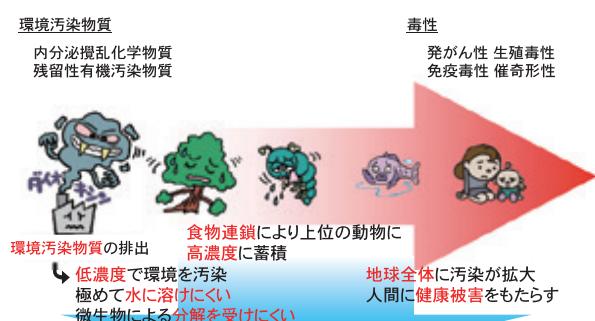
ウリ科植物は脂溶性汚染物質の蓄積に関して、他の植物とは一線を画しています。すなわち、ウリ科植物の多くはその他の植物種と比べ脂溶性汚染物質をその地上部に高濃度に蓄積することができるのです。これは、前述した脂溶性の高い殺虫剤がキュウリやカボチャなどのウリ科作物から検出されたという例からもわかります。しかしながら、なぜウリ科植物だけがこのような性質を持つのか長く謎のままでした。

### ウリ科植物が持つ脂溶性汚染物質の取り込み能力の解明

ズッキーニやカボチャなどを含むペポカボチャ(*Cucurbita pepo* L.)はウリ科植物の中でも特に脂溶性汚染物質の蓄積濃度がその地上部において高いことが知られています<図2>。我々は、ウリ科以外の植物に比べてペポカボチャがダイオキシン類をその地上部に100倍以上高濃度に蓄積すること<図3>、塩素原子の結合する位置や数が異なる様々な構造のPCBのうち、蓄積しやすいPCBの構造とそうでない構造があることを明らかにしてきました。また、この性質はペポカボチャの根の性能に由来することから、根を材料としてその違いを遺伝子レベルで明らかにすることを試みました。その結果、タンパク質の合成を制御する遺伝子など、ペポカボチャが脂溶性汚染物質をその地上部に高濃度に蓄積できる能力に関わる遺伝子を複数種見つけることに成功しました。

### 環境浄化への応用

ペポカボチャは一年生植物なので、たとえファイトレメディエーションのために利用したとしても浄化できる期間は夏の数ヶ月しかありません。しかし、多年生植物、例えば樹木にこのような遺伝子を導入することにより、環境汚染を長期間浄化し続けることが可能となります。さらに、汚染の可能性の高い場所にあらかじめこのような植物を植えておくことにより、継続的に環境浄化できるかもしれません。このような遺伝子は植物を利用した環境浄化用ツールとして非常に有用と言えます。欧米における環境汚染のファイトレメディエーションは右肩上がりで増加し続けています。また、アジアにおける環境浄化の需要は今後爆発的に増加すると予想されます。この研究で明らかにしたウリ科植物による脂溶性汚染物質の蓄積メカニズムをこのような分野に応用することを目指しています。

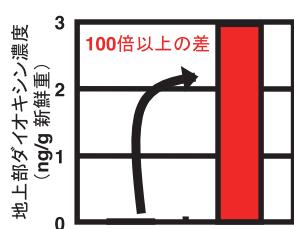


### 環境汚染の初期段階で浄化することは重要

<図1>汚染物質の環境への広がり



<図2>ズッキーニ  
この植物が脂溶性汚染物質による環境汚染から世界を救う！



<図3>植物地上部に蓄積したダイオキシン濃度の比較

# 六 築 賞

神戸大学大学院農学研究科 資源生命科学専攻  
応用動物学講座 動物遺伝育種学教育研究分野  
教 授 万年 英之



平成24年10月27日に開催されました第7回神戸大学ホームカミングデイ農学部企画の席上において、栄えある六築賞を賜り誠にありがとうございました。本受賞に関しましては、昨年4月に受賞した日本農学賞および読売農学賞を評価頂いたものと思っています。日本農学賞は、日本の農学研究者間における最高の栄誉の一つであり、若輩者の私が受賞させて頂いたことは身に余る光榮だと感じています。その受賞タイトルは「アジアの在来家畜の起源・系統史研究と遺伝資源の先駆的汎利用」であります。その内容を簡単に説明させて頂きます。

在来家畜は、祖先となった野生種と近代的育種技術により造成された品種の間に位置する多様な家畜群で、その多くは数千年の歴史をもち、諸地域の異なる自然環境や文化に適応してきています。したがって、在来家畜は近代品種の系譜や系統関係、基盤的遺伝特性などを理解するうえで不可欠な研究対象です。アジア、中

でも東南・南アジアは、ウシ、スイギュウ、ブタ、ニワトリなど重要な経済家畜の野生原種や交雑可能な近縁野生種・亜種が現在も生息し、家畜遺伝資源の効果的な保全・利用にとって貴重な地域です。受賞対象となった業績では、アジアの在来家畜の起源や系統を野生原種との関係からも明らかにし、遺伝子資源の保全に貢献しました。さらに、これら遺伝資源とゲノム情報を先駆的に利用し、実際の育種現場や社会問題の解決に貢献しました。

最後になりますが、これらの受賞は私を神戸大学農学部で育てて頂いた諸先輩方、共に研究を進めてきた仲間、そしてなにより実際にラボで研究を精力的に行ってもらった学生の皆さんとの仕事の功績であると考えています。これからも農学とは何かを考え、またゲノム解析を通して家畜の理解と利用に関する研究を進めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



# 六 節 賞



## 六 節 若 手 賞 を 受 賞 し て

神戸大学大学院農学研究科 資源生命科学専攻  
応用動物学講座 動物遺伝育種学教育研究分野

講 師 笹崎 晋史

この度は、歴史ある六箇会よりこのような栄誉ある賞を賜りまして誠に光栄に存じます。賞の授与にあたりご検討頂いた皆様、事務局の方々に心より御礼申し上げます。今回の受賞につきましては、昨年度受賞いたしました日本畜産学会奨励賞を評価して頂いたものと思っております。本研究は、近年社会的問題となっている食品の不当表示に対し、牛肉の産地および品種を識別可能なDNAマーカーの開発を目指して行われたものです。結果、国内品種間、または国産か輸入牛かを判定できるDNA鑑定技術を確立しました。本技術

は現在農林水産省において流通段階における検査法として実用化されております。

最後に、この度このような賞を受賞できましたことは、ひとえに農学研究科応用動物学の辻名誉教授ならびに万年教授の熱心なご指導の賜物であると、心より感謝しております。また研究の遂行にあたり、ご協力いただいた同研究室の学生諸氏に厚く御礼申し上げます。今後は、この賞を励みに一層研究および教育活動に精進して参りたいと思います。皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひ申し上げます。



## 六 節 若 手 賞 を 受 賞 し て

神戸大学大学院農学研究科 食料共生システム学専攻  
准教授 井上 一哉

この度は、六箇若手賞を賜り誠にありがとうございます。この賞の授与に関してご検討いただいた方々、六箇会会員の皆様、さらには、日頃よりご指導・ご鞭撻をいただいている田中勉教授、研究の遂行にご協力いただいた学生諸氏にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。今回の受賞は昨年度に受賞しました日本雨水資源化システム学会奨励賞を評価していただいたと思っております。受賞題目は、「地下水汚染物質の移流分散現象に関する数値モデルングと健康リスク評価への応用」であり、土壤・地下水汚染物質の輸送現象に関する実験的

アプローチに加えて、輸送現象の数値モデルの構築、健康リスク評価への応用といった農業・産業活動から活動の影響予測に至る広い視点から研究を展開してきました。地圏・水圏における複雑な物質輸送過程を表現するには、実験による検証と数値モデルングによる現象の記述が不可欠です。また、汚染に伴う健康面への影響の定量化は今後も一層、重要視されると考えられます。地盤環境汚染問題の解決に向けて、また、農学の発展に向けて、今後も精力的に研究を継続していく所存ですので、今後ともご指導のほどよろしくお願ひいたします。

## 六篠奨励賞を受賞して

応用植物学講座  
坂本 拓也

私は加西市にある食資源教育研究センターに住み、酒米の「山田錦」の研究を行っていました。窓の外では牛が鳴き、一面見渡すばかりの水田に囲まれた環境で、実験をし、その合間に学生同士で夕飯を作り、地酒を飲んで語り合い、絆を深めた日々でした。

六篠奨励賞を受けたのは、実際の農業に近い場所で研究を行えたこと、そして何より、山崎将紀准教授をはじめとし、片山寛則講師、学生、センター職員の方々の公私に渡る支えの

おかげです。

そして、私は今、ナツツを扱う会社で品質管理の仕事をしています。数年後には海外の農場へ視察に行くようになります。神戸大学で農学を学んだ6年間、そして、いただいた六篠賞に恥じぬように学んだことを活かして仕事をしていきたいと考えております。

最後になりましたが、素晴らしい賞を頂いたことに感謝いたします。ありがとうございました。

## 六篠学生賞を受賞して

資源生命学科 応用植物学コース  
大久保 裕史

今回はこのような素晴らしい賞をいただくことができ、大変光栄に思います。振り返ってみると、高校時代にスーパーサイエンスハイスクール（先進的な理数教育を実施する高等学校）の活動をきっかけとして生物・化学の分野に強い興味を抱き、環境・食料・農業を幅広く学べる農学部への入学を決意しました。

大学の講義は高校までの授業とは異なり、自ら主体的に学ぶ姿勢が要求されました。自身が専攻する園芸を始め、統計学・工学・語学・経済学と幅広い分野に渡って向上心をもち、貪欲に知識を吸収するように心がけました。

修士課程からは、東京大学・大学院農学研究科に進学し、

キクの花色をテーマとした研究に取り組んでいます。実際の実験は、共同研究先の花き研究所（つくば市）で行うことが多いのですが、最前線の研究員の方との協同作業、議論は刺激的で日々の成長を実感できます。その反面、失敗が重なり辛い時もありますが、今回の受賞を一つの自信にして、これからも謙虚に学ぶ姿勢を忘れることなく、癒しと安らぎを提供し、世の中を明るくする研究者になりたいです。

よく考え、よく悩み、そしてよく笑った四年間でした。ここまで自分を成長させてくれた、大学時代に出会えた全ての方々に感謝します。

資源生命学科 応用植物学コース  
佐橋 成彦

六篠会学生賞の受賞を担当教官から知られた時、思わず口をついて出たのは「なぜですか?」という一言でした。受賞の知らせが届いたのは昨年度末頃だったと記憶していますが、ちょうどその頃に学部学生時代の振り返りと、反省を行っていました。自分自身の至らなさを痛感しつつ、これから訪れる時間こそは納得のいくものにしようと思っていた矢先の受賞に、正直戸惑いを感じました。しかし、もしかしたらこのような展開こそが、目指すべきものなのかもしれないと思ったのも事実です。過去も未来もなく、今しかありません。そう思うにつれ、日々自分の中のハードルばかりが高くなり、後悔も山積みになるのですが、

ふと気付いてみれば、今までの生活は満更でもない。毎日が絶頂とはいきませんし、それは私にとってのただの憧れの人生に過ぎませんが、なにがしかの評価をいただく時、それまでの過程が完璧であることは、ほとんど無いのではないかと思います。むしろ、そういった過程よりも、自分の中で常にぐるぐるしているものと、それによる行動が意外な、意外と感じてしまうような結果を生むのではないかと思います。最後になりましたが、このような賞を授与してくださいました六篠会の皆様、いつも支援の手を差し伸べてくださる周囲の方々に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

# 同窓会報告

## 平成23年度庶務報告

平成23年度の一般事業として入学者記念品贈呈、会費納入促進、会報発行、各支部活動・学友会・KUC援助、農学部援助、六甲マラソン大会援助、手提げ袋贈呈、卒業祝賀会援助、慶弔関連などを行いました。また、学術振興事業として生命科学専攻主催の学術講演6件、大学院生の海外

渡航1件に対して援助を行い、優秀な業績を残した教員および学生に六篠賞の授与を行いました。

平成24年度についても、例年同様、一般事業および学術振興事業を維持していくことが総会で承認されましたので、それに基づき現在活動しているところです。

### ■役員

会長(学友会)	王子 善清	(兵C12)
副会長(会長職務代行)	辻 莊一	(兵Z12)
副会長(学友会幹事)	松井 功	(兵T16)
副会長(KUC)	中村 直彦	(神Z 1)
副会長(KUC)	石賀 暢一	(神C 1)
副会長(学友会幹事/会報委員長)	武 正興	(神C 3)
副会長(会報)	橋本 宏之	(神Z 7)
副会長(会報)	三浦 恒夫	(神A 9)
副会長(名簿)	水野 雅史	(神C 15)
理事(代表)	伊藤 一幸	(神A 4)
理事(会報)	大西 成己	(鶴 3)
理事(ホームカミングディ)	山本 博昭	(兵A12)
理事(名簿)	菅原 通直	(神C 4)

### ■役員

理事(名簿)	宮島 康彦	(神P23)
理事(会報)	松山 稔	(神P14)
理事(庶務)	乾 秀之	(神P25)
理事(会計)	池田 健一	(神P27)
理事(KUC)	坂井 永利	(兵A12)
理事(名簿)	吉倉惇一郎	(兵C16)
理事(ホームカミングディ)	中西 三生	(兵Z17)
監事	永吉 照人	(兵A13)
監事	外山 真里	(神C 8)
顧問	北浦 義久	(兵A 6)
顧問	能宗 康夫	(兵C 2)
顧問	西川 欣一	(兵A 1)
顧問	田中 平義	(兵C 1)
顧問	新家 龍	(兵C 5)

### ■六篠会代議員

井上健一郎	(神C25)
岩出 郁美	
宇野 雄一	(博後H8)
岡田 嘉夫	(神29T)
置塙 康之	(兵A14)
小田 哲也	
小田垣博三	(兵A 9)
柏原久美子	(神PR34)
門岡 織江	(神P17)
河野 健児	(神27Z)
川端 忠則	(神26A)
岸谷 靖雄	(兵A10)関東支部長
財田 福雄	(鶴 5)
酒井 修	(兵A 9)
阪上 昭宏	(鶴 3)
笛崎 晋史	(神AS31)
鈴木 武志	(神C23)
住田 昭男	(兵Z10)

### ■六篠会代議員

得丸 哲士	(神Z 2)
鳥居 明英	(神BE33)
中辻 優香	
中西 三生	(兵Z17)
西尾 司	(兵Z16)
橋本 堂史	(博後H14)
長谷川明彦	(神C 1)
長谷川信弘	(兵C16)東海支部長
花本 秀生	(兵C16)
番匠 宏行	(兵Z13)広島支部長
福田伊津子	(神BC31)
前田 泰秀	(兵C 8)
松永 将義	(神C17)
松本 幹夫	(神A 3)
深山 浩	(神A24)
八木 刚	(神P22)
矢代 学	(神P10)

### ●学術講演会援助

専攻・教育研究分野	開催日	講演題目(講演者)	参加数
生命機能科学専攻 応用生命化学講座	2011/04/27	食事由来フラボノイドの腸管吸収機構(近畿大学理工学部生命科学科 室田佳恵子先生) 力力才に含まれるポリフェノール類の抗動脈効果作用(株式会社明治 馬場星吾氏)	26名
生命機能科学専攻 農環境生物学講座	2011/05/19	多細胞体構築のふしき(理化学研究所神戸研究所所長 竹市雅俊博士)	50名
生命機能科学専攻 農環境生物学講座	2011/06/10	ナシ黒星病菌の病原性分化と抵抗性に関する研究の現状 (独立行政法人農業環境技術研究所生物生体機能研究領域 石井英夫先生)	25名
生命機能科学専攻 応用生命化学講座	2011/09/05	Functional analysis of the essential RNase Y and the novel phosphodiesterase YmdB: From the RNA degradosome to bistable gene expression	35名
生命機能科学専攻 応用生命化学講座	2011/10/24	Bacteroid development in legume nodules: evolution of mutual benefit or of sacrificial victims?	30名
生命機能科学専攻 農環境生物学講座	2011/12/12	Insect reproductive physiology and behavior: Some case studies in <i>Tribolium castaneum</i> and <i>Histocerica gregaria</i>	30名

### ●海外渡航援助

小山 竜平	応用植物学講座・花卉野菜園芸学分野/D3 Annual Conference of the American Society for Horticultural Science アメリカ合衆国・ハワイ州、2011.09.25～2011.09.28
-------	---

## ●六篠賞

	受 賞 者		受 賞 対 象(奨励賞は論文課題)	
特別賞	該当者なし			
業績賞(1名)	万年 英之(応用動物学講座・動物遺伝育種学)		平成23年度 日本農学賞 『アジアの在来家畜の起源・系統史研究と遺伝資源の先駆的汎利用』	
若手賞(2名)	笹崎 晋史(応用動物学講座・動物遺伝育種学)		2011年度(社)日本畜産学会奨励賞 『牛肉の品種及び産地を識別するDNAマーカーの開発』	
	井上 一哉(生産環境工学講座・施設環境学)		日本雨水資源化システム学会 奨励賞 『移流分散現象に関する数値モデリングと健康リスク評価への応用』	
奨励賞(11名)	岩崎 善之	生産環境工学講座		鈴木 克季 生産環境工学講座
	玉井 大地	食料環境経済学講座		木下 こづえ 応用動物学講座
	亀崎 青沙	応用動物学講座		藤原 さゆり 応用植物学講座
	坂本 拓也	応用植物学講座		長谷川 綾香 応用生命科学講座
	丸谷 曜子	応用生命科学講座		川端 訓功 農環境生物学講座
	香山佳代子	農環境生物学講座		
学生賞(12名)	小野由美子	生産環境工学コース		園田 悠介 生産環境工学コース
	籾内 慧太	食料環境経済学コース		久保 直子 応用動物学コース
	牧田 美穂	応用動物学コース		大久保裕史 応用植物学コース
	佐橋 成彦	応用植物学コース		長谷川清子 応用生命化学コース
	和田真理華	応用生命化学コース		秦 大介 応用生命化学コース
	安福 拓斗	環境生物学コース		岡田 文子 環境生物学コース

## ●23年度事業報告 一般事業

項目	時期	内 容
入学者記念品贈呈	4月	入学者328名 (学部:181名、修士:131名、博士:16名)
1)ロゴ入り USBメモリー		入会者175名 (学部:159名、修士:13名、博士:3名)
2)六十周年記念 DVD		入会率 (学部:88%、修士:42%*、博士:33%*) *修士未入会者(38名)及び 博士未入会者(9名)に対する入会率 在学入会者4名、入会合計179名
3)六篠会報No25		
活動援助	KUC	運営委員会(4回) 講演会(3回)及び行事(1回) 定例講演会「福島原発事故と放射線被ばく」 定例講演会「目の話」 定例講演会「清盛の六波羅幕府」 見学会-神戸産業医療都市
支部総会 支 部 總 會	県六篠会 広島 関東 東海 KōBE六篠会	10月 支部総会10月29日 (北浦会長、内田学部長出席) 10月 支部総会10月8日(能宗副会長出席) 10月 支部総会10月7日(北浦会長出席) 10月 支部総会10月10日 11月 支部総会11月12日 (北浦会長、内田農学部長出席)
六甲祭援助	11月	11月12日・13日開催
農学部研究科支援	10月	施設使用料及び運営費
会報発行	12月	7,700部(7,202部発送)
六甲山マラソン大会	12月	12月17日開催
卒業式用手提げ袋贈呈	3月	卒業生180名(内1名は9月卒業)
卒業記念パーティ援助	3月	修了生144名(内7名は9月修了)

## ■慶弔関連

以下の方々がご逝去なされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

岸田 忠昭 (兵C 7)	中島 清明 (博前26)
稻垣 國昭 (兵A10)	西釋 英章 (兵C13)
森口 俊 (神A 1)	栗崎 康徳 (兵A11)
中西 博信 (兵Z 3)	森下 昌計 (兵C 5)
角田 保 (修 4)	吉田 守 (兵A11)
中野 和俊 (神Z 2)	高見 知之 (兵C14)
小野 豊三 (兵C10)	波部 喜代志 (兵C 5)
都筑 良武 (兵Z 4)	小崎 正 (兵A 1) (旧姓 細見)

(順不同・敬称略)

## ■退職および着任教員

退職および着任された先生方をお知らせします。(敬称略)

## ●退職された職員(平成24年3月)

長谷川 信 教授	寺井 弘文 教授
朴 純允 教授	稻垣 昇 教授

## ●着任された教員(平成24年1月以降)

24年 1月 中塚 雅也 准教授(研究環より)  
24年 8月 加藤 拓 特命助教(採用)  
24年 9月 吉田 康子 助教(採用)  
24年 11月 木村 行宏 助教(研究環より)

# 平成23年度事業報告・決算

# 平成24年度事業計画・予算

六篠会 平成23年度一般会計決算

取入	7,138,983円			
支出	4,521,424円			
残高	2,617,559円			
<b>■収入の部</b>				
項目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備考
入会金	7,000,000	7,103,190	103,190	40,000円×179名 (振込手数料56.810円)
雑収入	1,000	11,154	10,154	普通預金口座利息
前年度からの繰越金	24,639	24,639	0	および寄付
<b>合計</b>	<b>7,025,639</b>	<b>7,138,983</b>	<b>113,344</b>	

## ■支出の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備考
農学部援助金	550,000	550,000	0	構内整備等、振込手数料
一般事務費				
会報発行費	1,600,000	1,333,643	-266,357	年一回(約7700部)
各種活動援助費	700,000	410,420	-289,580	支部活動・学生活動支援
入学記念祝賀費	500,000	270,420	-229,580	USBメモリ
卒業記念祝賀費	350,000	300,000	-50,000	祝賀会援助
卒業者名簿等管理費	100,000	0	-100,000	
総会経費	250,000	138,150	-111,850	総会経費
一般事務費	1,000,000	659,840	-340,160	事務アルバイト代、郵送料等
会議費	300,000	0	-300,000	理事会等
旅費	150,000	56,280	-93,720	
慶弔費	250,000	207,150	-42,850	定年退職教員への記念品、電報
交際費	230,000	181,795	-48,205	KUC活動等
褒賞費	100,000	0	-100,000	
役員活動費	550,000	303,306	-246,694	
神戸大学学友会費	120,000	110,420	-9,580	年会費、編集委員会会費等
繰り出し金	0	0	0	六條会基金へ繰り出し
予備費	275,639	0	-275,639	
支出合計	7,025,639	4,521,424	-2,504,215	
次年度への繰越金	0	2,617,559	2,617,559	
合計	7,025,639	7,138,983	113,344	

六篠会 平成23年度六篠会基金決算

収入	42,954,678円			
支出	790,105円			
残高	42,164,573円			
<b>■収入の部</b>				
項目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備考
前年度からの繰越金	42,945,613	42,945,613	0	
繰入金	0	0	0	
雑収入	30,000	9,065	-20,935	大口定期・普通預金利息
<b>合計</b>	<b>42,975,613</b>	<b>42,954,678</b>	<b>-20,935</b>	

## ■支出の部

項目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備考
学術活動援助費	400,000	120,000	-280,000	20,000円×6件
六箇賞	1,000,000	590,105	-409,895	副賞、賞状
海外渡航援助費	500,000	80,000	-420,000	80,000円×1件
予備費	100,000	0	-100,000	
支出計	2,000,000	790,105	-1,209,895	
保留金	40,975,613	42,164,573	1,188,960	
合計	42,975,613	42,954,678	-20,935	

会報の内容については、まだまだ検討すべき点がござります。是非皆様方のご意見やご投稿を事務局までお寄せいただき内容の充実を図りたいと存じます。

最後になりましたが、平成二十五年が、皆様方にどうぞ、母校にどうぞよろしくお願いいたします。

六篠会 平成24年度一般会計予算

## ■収入の部

項目	24年度予算案(円)	23年度予算(円)	増減(+・減)	備考
入会金	7,000,000	7,000,000	0	40,000円×約180名 (一振込み手数料)
雑収入	1,000	1,000	0	普通預金口座利息
前年度からの繰越金	2,617,559	24,639	2,592,920	
<b>合計</b>	<b>9,618,559</b>	<b>7,025,639</b>	<b>2,592,920</b>	

■支出の部

項目	24年度予算案(円)	23年度予算(円)	増減(+/-減)	備考
農学部援助費	550,000	550,000	0	構内整備等、振込手数料
一般事業費				
会報発行費	1,600,000	1,600,000	0	年一回（約7,700部）
各種活動援助費	700,000	700,000	0	支部活動・学生活動支援
入学記念祝賀費	500,000	500,000	0	USBメモリ
卒業記念祝賀費	500,000	350,000	150,000	祝賀会援助、紙袋代
卒業者名簿等管理費	100,000	100,000	0	
総会経費	1,000,000	250,000	750,000	総会経費
一般事務費	1,000,000	1,000,000	0	事務アラバイト代、郵送料等
会議費	100,000	300,000	-200,000	理事会会等
旅費	150,000	150,000	0	
慶弔費	250,000	250,000	0	定年退職教員への記念品、電報
交際費	230,000	230,000	0	KUC活動等
褒賞費	100,000	100,000	0	
役員活動費	550,000	550,000	0	
神戸大学学友会費	120,000	120,000	0	年会費、編集委員会会費等
繰り出し金	2,000,000	0	2,000,000	六篠会基金へ繰り出し
予備費	168,559	275,639	-107,080	
合計	9,618,559	7,025,639	2,592,920	

六篠会 平成24年度六篠会基金予算

## ■収入の部

項目	24年度予算案(円)	23年度予算(円)	増減(+:減)	備考
前年度からの繰越金	42,164,573	42,945,613	-781,040	
繰入金	2,000,000	0	2,000,000	一般会計からの繰り入れ
雑収入	30,000	30,000	0	大口定期・普通預金利息
合計	44,194,573	42,975,613	1,218,960	

■支出の部

項目	24年度予算案(円)	23年度予算(円)	増減(+減)	備考
学術活動援助費	400,000	400,000	0	
六篠賞	1,000,000	1,000,000	0	
海外渡航援助費	500,000	500,000	0	
予備費	100,000	100,000	0	
支出計	2,000,000	2,000,000	0	
保留金	42,194,573	40,975,613	1,218,960	
合計	44,194,573	42,975,613	1,218,960	

同窓会事務局の案内

会員の皆様からの本会へのご連絡をFAX、e-mailで受付けております。住所や連絡先の変更、また本会に対するご要望、ご意見などお待ちしております。なおご連絡の際には、所属学科・卒業年次・送付物の宛名シールの右下に記載されている個人コードを併せてお伝え頂くようお願い申し、トpezます。

- FAX:078-881-2752
  - e-mail:rikusoukai@yahoo.co.jp
  - ホームページ  
<http://home.kobe-u.com/rikusou/>

の多大のご協力を得て作成しております。

これは、年一回全員約八千人に送り届けられる会報が、同窓会活動を活性化するために最も重要な情報発信機能を果たしているからです。

編集後記